



Pick Up News

今号と次号では大学院を特集いたします。学部での学びの先に大学院があります。本学建築学科からの大学院進学率は約10%ですが、他大学では進学率30~40%の大学も多くあります。学部→就職ではなく、学部→大学院→就職という進路をとることで、よりそれぞれの興味・専門につながる仕事に就ける可能性も高まりますし、大学院に進学しないと就けない業種・職種もあります。なにより、2年間さらに学ぶ（自身の興味や専門を高める研究や設計活動をする）ことで、社会に出てから必要となるさまざまな力が付きますし、自身に自信が持てるようになり、それが人間としての成長をうながします。少しでも興味がある人は、躊躇なく進学することをお奨めします。奨学金もありますし、TAという教育補助業務を行うことで毎月の給与も支給されます。本学からの進学であれば、入学金・設備負担金も不要のため学部と比較すると大幅に負担も軽減されます。大学院に進学することは特別なことではありません。進路の一つとして、普通に考えてもらいたいと思います。大学院に在籍する先輩の声を集めました。参考にして下さい。

大学院特集です。大学院生の声を通して大学院の魅力を感じて下さい。

1. 大学院を志した理由
2. 進学を決めた時期
3. 大学院で学んでの感想
4. 学部生へのメッセージ

進路としての大学院の選択

1. 卒業研究を進めていく中で、研究を進めたいと思ったから。また、構造の分野を深く学びたいと思ったから。
2. 3年生の7月頃
3. 研究室の専門的分野を集中して学べる。
4. 建築の分野は幅広いので就職活動を通して自分の好む分野が見えてくることもあると思います。その時、「就職するのか」「大学院への進学」を考えても遅くはないので自分の求める姿を模索模索してみてください！（船木研M1：小嶋健太郎）

1. 学部よりも専門的な知識を身につけ、構造設計の職に就くため
2. 3年前期
3. 興味のある分野に集中して取り組めるため楽しい
4. 将来への選択肢の幅が広がるため大学院進学を考えるのも良いと思う（薛研M2：木藤優弥）

1. 学部での学びより深い知識を得るため
2. 3年生の前期
3. 専門的な知識も得ることができ、自分が興味のある分野の実務のお話も聞くことができたのでとても充実していました
4. 大学院では、専門的な知識の他にも資格取得、就職の幅が広がるなどメリットがたくさんあります。現在進路で悩まれている方は大学院進学を選択肢の一つとして考えてみてください。（薛研M1：佐藤豪大）

1. 学びが足りないと感じたからです。
2. 3年生の夏
3. 新しいことを学ぶことは楽しいです。とくに、輪読やディベートの形式など学部時代にはできなかった授業が多いです。これらは、自ら調べ自分なりの考えを持たないと成立しません。先生や生徒と討論の中で自らの考えを深めることができる大学院の授業を自分は楽しいと感じています。
4. 少しでも学びたい・成長したいと考えている人には是非チャレンジしてほしいです。（不破研M2：石田義尚）

1. 3年生で就職を考えていましたが、建築について自分の知識が浅いことに気づき、より学びを深めるために大学院進学を決めました。
2. 早期推薦だと学費が安くなるのでそれに合わせて決めました。
3. 講義もありますが、学部の時よりも自由な時間が多いです。なので自分のやりたいことを時間にとらわれずにできます。逆に目的もなく過ごしているとあっという間に1年が終わってしまうと思います。そう言う人には向きません。
4. 大学院にはなんでもいので目的を持って進学することをお勧めします。（大石研M1：大石葉介）

1. 伝統建築について深く学ぶため
2. 3年の1月頃
3. 取らなければいけない単位が多く、4年生の時に先取り履修をもう少し取ってあげればよかったと思います。
4. 就職先を吟味する時間や資格勉強などに余裕ができるので、ぜひ大学院を検討してみてください。（中村研M1：大友侑果）

春季推薦（4月出願）は奨学金もあります。進路の一つとして早めに意識するとよいでしょう。

Pick Up Lab.

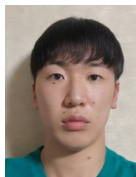
近未来の住宅生産はどうなっていると思いますか？住宅産業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）が進む中で、モノづくりの効率化・高度化による生産性や性能の向上、新しい住生活サービスやビジネスモデルの構築、そして働き方改革の促進など、住宅生産を取り巻く環境は大きく変化しています。有川研究室では、全国の工務店有志による産学連携プロジェクト「Koumuten Job!」や国土交通省の補助事業「一棟司塾」のアドバイザーとして、地域の住まいづくりを担う人々とともにこれからの住宅生産のあり方を研究しています。職人や技能者と触れ合いながら、将来の日本の住まいを一緒に考えてみませんか。



地域の森林見学会



大工職人を対象とした講習会



3年 村上 智 くん
柴田高校 出身

Pick Up Student

私は高校では体育科に属していましたが大好きな建築について深く学びたいと思い大学に進学しました。私は大学で単位ギリギリ留年ギリギリ生活を送ると思っていましたが、先輩との繋がりを活用したり友達と助け合いながら効率よく勉強することで落単せずにここまで来ることが出来ました。また、提示される課題は様々なものがあり、特に設計課題は多くの時間を用いますが、その分時間の効率的な使い方や多くの知識・経験が大きな糧となる大切なものだと感じます。勉強以外にも大学生活ではスポーツで日本選手権最終予選で戦う経験もできました。しかし今は就職活動の時期なのでそこに一点集中で頑張りたいと思います。



1年 森 桜 さん
白石工業高校 出身

Pick Up Student

4月から始まった大学生活は、慣れないことや課題が思っていたよりも多く、バタバタと落ち着きのない生活を送っているうちに一年の前期課程が終わりました。課題は大変ですが、先生方の評価や意見、友人の課題作品から刺激を受けて建築について調べる機会が増えたことで、自分の成長に繋がっていると感じます。また、先日参加したサークル活動（民家再生活用ワーキンググループ：MSKWG）では、大学院生の先輩や先生と話したり、普段ならできないような作業を体験ができ、とてもいい経験になりました。後期からは、前期とまた違った講義が始まるので楽しみです。今後も課題に丁寧に取り組み、サークル活動にも積極的に参加して自分の成長に繋がっていきたいです。